

2013年第2回 政策フォーラム

経済成長と 科学技術イノベーション政策



一橋大学・経済研究所・世代間問題研究機構
総合科学技術会議 青木玲子

2013年9月25日

科学技術イノベーション政策

- 「総合科学技術会議の今後の検討課題について」（2013年9月13日 総合科学技術会議有識者提出）
 - － ‘経済再生と財政健全化両立’
 - － ‘科学技術の最大限の活用により各分野の財政支出コストの節減効果が期待できる’
- 本日の議論 = より効果的な科学技術イノベーション政策とは？
 - － 優先順位をつけるのに重要

どうして科学技術イノベーション政策 が必要か？

- 科学技術イノベーション = 新しい知識・技術
(情報)の創出
- 情報は普通の財とことなる = 外部性が大きい
 - 非排他性 人が使うのを妨げるのが困難で、誰が恩恵を受けているのか特定できない
 - 非競合性 いくら使っても劣化しない (価値が下がるのはより優れた情報ができたから、自動車の摩耗と異なる)
- 市場にまかせでは、過少投資、過少供給になる

政策介入が必要になる

- 非排他性のため、投資が収入につながらない
 - 知的財産による法的排他性
- 恩恵を受ける人・企業がはっきりしない
 - 国がお金を集めて(税金)、社会的恩恵の大きい情報取得に投資 SIP、InPACT
- 非競合的なので、できるだけ多くの人に安価(コスト)で提供するのが社会的に最適
 - 国が投資をして、新しい情報を安く提供 (公的研究機関、大学、科学研究費)

公的研究機関、大学の役割

- 基礎研究の供給
 - 企業のabsorptive capacityが重要
- 応用研究・技術の供給
 - Technology Licensing Officeの役割
- 人材の供給
 - 大学が重要
 - Absorptive capacityの一部

本日予定

- 報告

- 科学技術イノベーション政策 統括官
- 外部性 = スピルオーバー 深尾教授
- Absorptive Capacity 長岡教授
- 大学とTLO Schankerman教授

- パネルディスカッション

- 久間議員(製造業)、永田社長(医療企業)
- 五神教授(物理、大学)、林崎教授(バイオ、理研)